

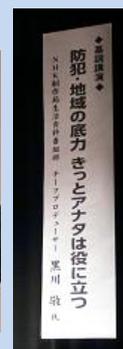


コラム

有識者の目から見た安全・安心まちづくり（35）

今回は、「防犯・地域の底力 きっとアナタは役に立つ」というテーマで、10月に開催しました平成30年度全国地域安全運動奈良県民大会で講演を賜りました、NHK制作局生活食料番組部 チーフプロデューサー黒川 敬さんにご寄稿いただきました。

「ご町内から日本を変えよう！」それは私がディレクターとして担当した「難問解決！ご近所の底力」のキャッチフレーズでした。お隣同士の関係が薄れ、町内会にも参加しない。長年日本が培ってきた安全安心のシステムがガラガラと音をたてて壊れつつある頃、番組はスタートしました。くしくも侵入盗の認知件数が激増していた時代です。果たしてこんな時代と逆行する訴えが受け入れられるものなのか？正直半信半疑でした。



しかし、私の心配は見事に裏切られました。「空き巣」が当時日本一多かった杉並区馬橋地区では、防犯パトロール隊が結成されました。そしてかつて3日に1件は空き巣の被害があった町が月間ゼロ件になるまでに生まれ変わったんです。今でこそ当たり前のように防犯パトロールが全国各地に根付いていますが、当時はまさに先駆けの事件でした。

地域の人々は難問に体当たりし、町を変えていきました。その奇跡は次々と続きました。

驚きました。「日本はすてたもんじゃない！」これが私の結論でした。それからも私の先入観は崩されていきました。例えば70代のパワーです。後期高齢者はいたわりの存在ではありませんでした。地域においては、正義感が強く、勤勉な主役でした。そのエネルギーやクリエイティビティには毎回、驚かされました。頭が下がる思いでした。そして20代の若者は無関心という先入観も消えました。彼らは、誰かの役にたたいと純粹に考えています。30代40代と年齢が上がるにつれ消えてしまうあきらめが少なく、信頼してまかせてあげると地域に情熱を吹き込む存在になります。

「ご近所の底力」を通じて思い込みがいかにも無意味か、ということを教わりました。「どうせやってくれないだろう」「期待しても無駄」とつい狭い殻に閉じこもりがちですが、実はそれこそが、地域をだめにする元凶ではないかと。まずは身の回りにいる人を信じてみる。期待外れなこともあるでしょう。でもそういう人たちをうまく生かし地域の仲間として育てていくことが、防犯力を高め、地域を活性化する一番大事なことなのかもしれません。

先日奈良県で防犯活動に取り組んでいる人と話しました。そばに人材はいますか？と聞くと多くの人が「います」と即答しました。素晴らしいではないですか！是非、その力を育み奈良を安心安全な地域にしていきたいと思います。必ずできるはずですよ。

<プロフィール> NHK制作局生活食料番組部 チーフプロデューサー 黒川 敬（くろかわ たかし）

富山県高岡市出身。上智大学法学部を卒業後、平成3年にNHK入局。これまでに「クローズアップ現代」、「ニュース シブ5時」、「所さん！大変ですよ」、「あさイチ」などを担当。平成15年より「難問解決！ご近所の底力」を担当し、番組が終了した今でも、地域の疑問等に悩む全国各地からの要請を受けて、講演活動を行っている。